



3/28 芦田喜久雄
盧泰愚韓国大統領の訪日（全体像）

ル手交

平成元年 3 月

I. 将来に向けての真の出発点

秘密指定解除
公文書監理室

1.



2. 盧大統領の日本人へのアピール（「普通の人」、韓国民主化の旗手、 温和なイメージ）

- （1）国会演説の実現
- （2）日本記者クラブでのスピーチ
- （3）大統領が日本国民の中にはいりこむような機会づくりも要検討。
- （4）夫人日程の活用。
- （5）事前 P R の必要性。

3. 過去に起因する諸問題への区ぎり

(1) 在日韓国人問題(3世問題)－3世については親よりも更に安定した法的地位、待遇を与えるとの基本的考え方を提示の必要。

(2) 在サハリン韓国人問題－新規予算を踏まえた具体的協力策を提示。更に韓国への永久帰還者の定着促進を支援すべく、2,000万円コミットの必要。

(3) 在韓被爆者問題－今次大統領訪日の最大 이슈 となりつつあり。本問題に決着を付けるべく、40億円の追加コミットは不可欠。

4. 将来に向けての人物、文化交流の促進

(1) 「8,000名交流計画」の具体化－新規予算約4億円を使った効果的交流の在り方につき21世紀日韓委員会より提言。右を首脳会談で合意。

(2) 21世紀日韓委員会の活動強化－本年は日韓の相互認識につき調査(世論調査等)。そのため約3,000万円が必要(既存予算での対応を検討)。

(3) 文化財引き渡し問題－韓国側の具体的要望を見極めることが先決。

(4) 文化交流の強化－対日文化規制の緩和(場合によっては文化交流協定の検討)

(5) 民間人的交流の促進－査証手続の簡素化、査証手数料の相互免除(年間3,000円×約50万件=15億円)等。

5. 交流強化のためのインフラストラクチャー整備(人的交流増大、邦人保護の対策)

(1) 捜査、司法共助体制の確立

(2) 海難救助協定の締結

(3) 査証発給、邦人保護体制の強化

II. グローバルな広がりを持つ関係の構築

1. アジア、太平洋協力—N I E S の代表たる韓国と世界第2位の経済力を有する日本が同地域の発展のために如何に協力して行くか。

2. ドナー国としての日韓協力（アジア、太平洋地域引いては世界の繁栄と安定に貢献）—協調融資、共同プロジェクト、日韓協力のもと第3国研修などの可能性を探求していくことは今後の課題。